第34回 民俗芸能と農村生活を考える会

岡山県奈義町の郷土芸能より
「横仙（よこぜん）歌舞伎」公演

【開催日時】 令和6年 2月3日(土) 13:00開演

【開催場所】 国立文楽劇場（大阪府大阪市中央区日本橋）

主催　一般社団法人全国農協観光協会

後援　農林水産省／文化庁／観光庁／岡山県／奈義町／
一般社団法人全国農業協同組合中央会／岡山県農業協同組合中央会／
一般財団法人地域伝統芸能活用センター／公益社団法人全日本郷土芸能協会／
全国民俗芸能保存振興市町村連盟／株式会社農協観光

奈義町空撮

菩提寺のイチョウ

国立文楽劇場

一般社団法人 全国農協観光協会
https://www.znk.or.jp
zennoukan@i-znk.jp

【本　所】
〒101-0021　東京都千代田区外神田1-16-8 4階
TEL.03-5297-0321 FAX.03-5297-0260

【西日本事務所】
〒532-0011　大阪市淀川区西中島3-11-10 新三宝ビル4階
TEL.06-6195-3960 FAX.06-6195-3970

鬼一法眼三略巻「菊畑」

主催者挨拶

第34回民俗芸能と農村生活を考える会の開催にあたり一言ご挨拶申し上げます。

今年で第34回となる本公演は、都市住民の皆様に全国の農山村地域の伝統的な民俗芸能をご紹介することにより、地域の農業と暮らし、伝統文化や歴史についての理解を深める機会を提供し、都市と農村の交流により、地域活性化の一助となることを目的として開催しております。大阪会場では10年ぶりの開催となり、今回は岡山県奈義町に江戸時代から伝わる地歌舞伎で岡山県重要無形民俗文化財にも指定されている「横仙歌舞伎」をご紹介し、民俗芸能と地域の暮らしを、ご来場の皆様とともに考えていきたいと思います。

民俗芸能は、地域の生活や文化に溶け込み、神事や祭りなどによって地域住民を結びつけるきっかけとなっています。この活動は地域資源ならびに地域の絆です。我が国は少子高齢化の只中にあり、農山村地域でも人口減少の影響による「過疎化」は年々深刻化しております。そういった社会情勢の中、古くから伝承されてきた民俗芸能をどの様に後世へ受け継いでいくべきか考えていく必要があります。この「民俗芸能と農村生活を考える会」がその機会となり、都市と農村の架け橋になることを切に願っております。

また、「民俗芸能と農村生活を考える会」が第34回を迎えることができますことも、ひとえに各民俗芸能関係者の皆様とご来場の皆様のご支援の賜物と心より感謝しております。本会は今後もこれらの取り組みを通じて、都市住民の皆様に、様々な情報を発信するとともに、農山村地域に寄り添い、都市と農村の交流人口づくりや地域振興を支援してまいります。

結びに、今回ご協力いただきました岡山県奈義町ならびに横仙歌舞伎保存会をはじめとする地域の皆様、さらに関係団体の皆様に心より御礼申し上げ、挨拶といたします。

一般社団法人全国農協観光協会
代表理事会長　櫻井 宏

文楽劇場公演によせて

奈義町長　奥 正親

この度「第34回民俗芸能と農村生活を考える会」が盛大に開催されることを心よりお慶び申し上げます。奈義町は岡山県の北東部に位置し、鳥取県との県境の町です。北には中国山脈、標高1255mの那岐山を頂き、その南麓で、岡山県下唯一の国指定天然記念物「菩提寺のイチョウ」が根づいています。

この大樹は、浄土宗の開祖「法然上人」が幼少期にここで仏教の手ほどきを受ける際、学業成就を願い挿したものが根付いたと云われ、奈義町の豊かな自然と歴史を物語るものです。文化を大切にしつつ、子育て支援や介護と医療が密接に連携した在宅医療など、町民に寄り添ったきめ細かな独自の福祉施策を進めてまいりました。平成24年に子育て応援宣言をし、「未来を担うひとづくり」を合言葉に、町独自の様々な子育て支援施策を拡充し、令和元年には合計特殊出生率2・95を達成しています。

また、令和5年2月には岸田首相が子育て支援の取組の視察に来町され、地域ぐるみの支援が高く評価されました。

今後も自然とアートにより「魅力を未来へ紡ぎ、暮らしやすく誰もが輝けるまち」を目指しております。芸術文化において、奈義町現代美術館がございます。通称Nagi MOCA（ナギ・モカ）と呼ばれ、わが国を代表する世界的な建築家磯崎新によって設計され、平成6年4月25日に開館しました。太陽、月、大地と名付けられた、3つの展示室から構成され、国際的に活躍されている荒川修作＋マドリン・ギンズ、岡崎和郎、宮脇愛子の4人の芸術家に一般の美術館では収集不能とされる巨大作品と建物とが半永久的に一体化した美術館です。

特に伝統芸能で、本日上演される横仙歌舞伎がございます。地下芝居として親しまれ江戸時代から途絶えることない伝統を誇ります。昭和41年に町内の故高森源一氏の岡山県民俗文化財指定を期に有志で横仙歌舞伎保存会を発足、50年以上にわたる活動は近年高い評価を受けております。役者、義太夫、三味線、化粧、衣装着付けも床山もすべて保存会で行われており「横仙こども歌舞伎」の指導、小学校での歌舞伎の授業など「地下芝居」の姿を未来に伝えるため町をあげて取り組んでおります。

結びに今回横仙歌舞伎の公演と併せて、奈義町を紹介する機会をいただきました関係者の皆様に、心より感謝申し上げますとともに、本日の公演の御盛会を御祈念申し上げ挨拶といたします。

プログラム

第34回民俗芸能と農村生活を考える会

岡山県奈義町の郷土芸能より
横仙歌舞伎

13：00　開会・あいさつ

13：10～　【第一部】
民俗文化の背景をさぐる
～岡山県奈義町について～
プレゼンテーター奥正親町長
葛西聖司さんのおはなし
休憩時間（約20分）

14：00～　【第二部】
民俗芸能の特別公演《横仙歌舞伎》
演目「源九郎狐と初音の鼓」

15：00頃　閉会

「重の井子別れ」こども歌舞伎教室

魅力を未来へ紡ぎ、暮らしやすく誰もが輝けるまち

奈義町（なぎ）

那岐山

奈義町は豊かな自然と横仙歌舞伎が代表する伝統文化、また奈義町現代美術館による最先端の現代アートなど、自然と文化・芸術が混ざりあい、観光客を惹きつけています。

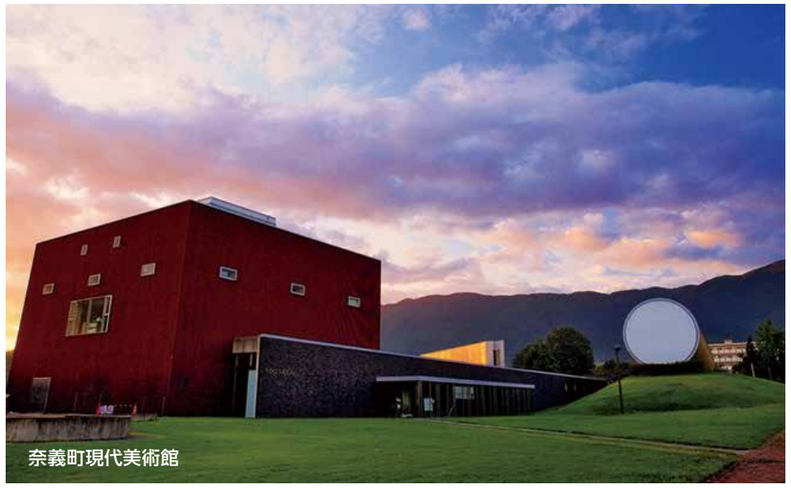
国定公園にも指定されている**那岐山**にはトレッキングコースがあり、貴重な天然林や蛇淵の滝など、壮大な自然を間近で体感できるのが魅力です。春から夏にかけては「ドウダンツツジ」が咲き乱れ、秋には木々が紅葉し、季節とともに、山の表情も変わります。山の駅から菩提寺や中世の城跡、滝などを巡る遊歩道も整備され、気軽に散策が楽しめます。

菩提寺のイチョウ

国指定天然記念物に指定されている**菩提寺のイチョウ**は菩提寺の境内にそびえる巨木です。菩提寺は浄土宗の開祖となる法然上人が幼い時に修行した場所と云われており、その際に学問成就を祈願して、麓のイチョウの枝を「学成れば根付けよ」と挿したものが根付き、この「菩提寺のイチョウ」になったといわれています。新日本名木100選（平成元年読売新聞）にも選ばれ、黄葉の時期には多くの人が訪れます。

奈義町では、良好な樹勢を維持することを目的に定期的に樹木医による樹勢診断と樹勢維持施策を継続しています。

また、古事を検証することでかつての木の環境を知り、今後の樹勢維持を考えることを目的に、麓の杖にしたとの伝承のある「阿弥陀堂のイチョウ」とのDNA鑑定調査行を行いました。結果はともに同じDNAを持つクローンである事が証明され、平成29年には「阿弥陀堂のイチョウ」は岡山県指定天然記念物となり、奈義町のシンボルツリーとして大切にされています。


奈義町現代美術館

奈義町現代美術館は建築と芸術作品を融合させ、周囲の環境も取り込んでみせる「新しいタイプの美術館」として平成6年に開館、「ナギモカ」の愛称で親しまれています。近年ではインスタ映えするとSNSで多くの人が取り上げています。建築を手がけたのは、建築家磯崎新（いそざきあらた）氏。令和元年には、建築界のノーベル賞ともいわれるアメリカのプリッカー賞を受賞するなど、国際的に活躍されています。作品は、3組のアーティストの作品と建物が半永久的に一体化し「空間＝建築化」として、建築家と芸術家が共同制作した体験型現代美術館の先駆けとして注目されました。現在も、多様な作家を紹介していく企画展やイベントを毎月実施し、独特の世界観で人々を魅了しています。

なぎビーフとは奈義町の肥育農家が生産する黒毛和牛または交雑種の子牛を、特別に配合された専用飼料を与えて、こだわりの飼育方法で育てた肉牛です。なぎビーフの品質は高く評価され、5年ごとに開催される全国和牛能力共進会では4回連続優秀賞に選ばれています。

おかやま黒豚は奈義町内で生産量のほぼ100％が飼育されている地域ブランドで、高品質豚肉の代表格です。

勝英地域で採れる**黒大豆**は「作州黒」と呼ばれており、大粒で味が良いのが特徴です。黒豆を使った加工品はもとより、近年は黒大豆枝豆が大人気となっています。

なぎビーフ

おかやま黒豚

通気性・排水性に優れた土壌は「黒ボコ」と呼ばれ、里芋栽培に適しており、そのため、**奈義町の里芋**は粘り気が強くおいしいと定評です。その他にも、県下一の産地となっている**白ネギ**や、甘みがあり太く歯触りが良いアスパラガス等が有名です。

里芋

奈義町の白ねぎ

東作州地方の地下芝居

岡山県の東北部、旧美作の国のさらに東半分を東作州地方と呼ぶ習わしがあります。この地方の地下芝居は、各村の神社に建てられた歌舞伎専用舞台で、春秋の村祭りと連動して行われていました。

村人はそれぞれ酒肴を持ち寄り、客席からは掛け声が飛びかい、夕方から夜更けまで催されました。若者は出会いを求め、村々の芝居を渡り歩き、地下芝居は村の社交場として大切にされていました。

しかし、第二次世界大戦の混乱と、戦後の高度経済成長期での映画やテレビなどの新たな娯楽の誕生、村からの人口流出により、地下芝居は次第に姿を消していきます。

忘れられつつある農村の原風景とも言うべき地下芝居を地域の生涯学習の場として展開しています。

□ 位置・面積・人口

奈義町は岡山県北東部に位置し、東は美作市、西は津山市、南は勝央町、北に国定公園那岐山、滝山の連山の分水嶺を境として鳥取県智頭町と接しています。大阪駅からの津山行きのバスで約2時間、津山駅から奈義町まで中鉄・北部バスに乗り換え約40分で到着します。面積は69.52k㎡でその内の11.94k㎡が陸上自衛隊日本原演習場となっています。人口は、約6千人の小さな町ですが、2014年に子育て応援宣言を行い、2019年の合計特殊出生率は2.95と全国トップクラスの子育てのしやすい町です。

□ 地勢

町域は日本原高原と呼ばれる那岐山の南麓に広がる扇状の台地で、中山間地域にありながら空が広く感じられる開けた地形です。町のシンボルでもある標高1,255mの那岐山のふもとに位置し、四季折々の美しい自然に恵まれています。土質は黒ぼこと呼ばれる火山灰が積もってできた土で、ミネラル豊富で保水性も高いため、里芋や稲作に適しており、それらは奈義町の特産品となっています。また、町内を国道53号が横断し、近隣の市町への移動も車で約30分以内の生活圏を形成しています。

地元の大人や子どもたちが憩える空間
「多世代交流広場ナギテラス」

□ 気候

年間の平均気温は14度と過ごしやすい気候で、積雪量も比較的少ない地域です。台風の進行するコースによっては、日本三大局地風の広戸風が発生することがあり、那岐山から吹き降ろす風が時には最大瞬間風速50mに達することもあります。そのため、家屋の北側に「コセ」と呼ばれる防風林を備えている家も多く、奈義町の独特の景観をかたち作っています。

「コセ」と呼ばれる防風林

□ 産業

奈義町の基幹産業は農業で、比較的平坦な地形に恵まれ、古くから稲作が営まれています。畜産業についても盛んに行われており、特産品の「なぎビーフ」は、全国和牛能力共進会では４回連続優秀賞に選ばれています。また、平成４年に東山工業団地が整備され、現在では16社の企業が操業しています。

昭和40年頃の公演の様子

高森 源一

横仙歌舞伎の活動について

横仙歌舞伎保存会　副会長　小阪　四郎

この度は「第34回民俗芸能と農村生活を考える会」へ出演、また国立文楽劇場の舞台へ出演の機会を頂き誠にありがとうございます。客席から眺めていた、あの舞台に立つ事を考えると膝の震えるような緊張と感激を覚えます。

私たち横仙歌舞伎保存会は、昭和41年、故高森源一さんが横仙歌舞伎技術保持者として「岡山県重要無形民俗文化財」の指定を受けたのを機に、有志で現在の保存会の前身を発足し、現在まで50年以上にわたる活動を続けています。

戦後の高度経済成長期以降は、農村からの人口流出や、映画やテレビなどの娯楽の変容など各地で急速に「地下芝居（じげしばい）」は姿を消してゆきます。

高森さんは、昭和20年代から私財を投じ、衣装やかつらなどを買いそろえ、一座を編成し各地へ公演に出掛けられていました。また、町内の神社境内で行われる村の歌舞伎に快く道具を貸し、指導を行い、これを喜びとした方でした。

高森さんの芝居好きは幼いころの歌舞伎出演の記憶から始まり、県外で警察官として勤め、退職後は郷里で「地下芝居」の振興に生涯を捧げました。

また、能筆な高森さんは多くの台本（根本）を書き残しており、本日上演する「源九郎狐と初音の鼓」もその中のひとつで、さらに高森さんご自身の作という珍しい一幕です。

現在まで奈義町の横仙歌舞伎が続いて来られたのは高森さんをはじめとする先人の礎と、長年にわたり作りあげた保存会や伝承の体制づくりの賜物でもあります。

公民館講座として、平成８年に開講した「横仙こども歌舞伎教室」も近年は評価が高まり、横仙歌舞伎の見どころとして定着しつつあります。成長した子ども達が、進学や就職、結婚など、将来奈義町を離れても歌舞伎をしていたことを誇れるような大人になってもらいたいと願っています。また、行政からも専門職員の採用等、多大な支援を受けております。

このように、奈義町の町をあげた横仙歌舞伎振興の取り組みは全国から注目を集めていますが、人口減少による後継者不足は深刻な課題となっています。

この様な状況への打開策として、本会では、次世代へのバトンタッチを進め、今回の文楽劇場公演に向けて裏方スタッフの育成講座を行うなど、新たな試みに挑戦しました。

最後に本日ご支援いただいた主催者及び関係者の皆様に感謝申し上げ、この公演を期に益々の技芸の精進を誓い挨拶といたします。

公演する民俗芸能のご紹介「横仙歌舞伎」

よこぜん

「寿式三番叟（ことぶきしきさんばんそう）」
演出も出演もすべて横仙歌舞伎保存会

【横仙歌舞伎のあゆみ】

横仙歌舞伎は江戸時代以来途絶えることのない伝統を誇る団体です。

横仙歌舞伎保存会は、昭和41年、故高森源一の岡山県重要無形民俗文化財指定をきっかけに有志により発足しました。

高森氏は、一座を作り各地へ公演に出かけ、私財を投じて衣裳やかつら、大小道具を買い揃え、それを村の地歌舞伎に、快く貸し出し、演技指導も行い、自らも太夫、三味線、役者も務めました。

また、能筆な高森氏は、多くの根本（台本）を書き残し、この根本を演じる事が横仙歌舞伎のアイデンティティーです。昭和49年に亡くなるまで、地域の第一人者として活躍し、中興の祖として現在までも高く評価されています。高森氏の没後昭和51年に、横仙歌舞伎保存会は岡山県重要無形民俗文化財に指定をされます。

現在は、県内外の保存会の裏方支援を行い、その他出張公演、慰問公演なども行い岡山県の歌舞伎の要として活躍を続けています。

このような活動は近年では高い評価を受け、令和元年には「第39回伝統文化ポーラ賞地域賞」など数々の受賞の栄誉に浴する事ができました。

「菅原伝譚栄奈義」のあかじ
こども歌舞伎教室

「曽我対面」の梶原

こども歌舞伎支度の様子

【伝承と活性化を目指して】

横仙歌舞伎においても、町の過疎、高齢化による後継者問題は深刻な課題です。次の世代に町の伝統を継承していくために平成8年、12年には、歌舞伎専門職員を採用し、それぞれ三味線の専門の研修を受け、現在も横仙歌舞伎保存会の一員として活動を続けています。

平成8年には、「横仙こども歌舞伎教室」を開講しました。毎年5月に教室生を奈義町内の小中学生を募集し、11月の秋の定期公演の出演を目指して週1～2回の稽古を続けています。

子ども達に歌舞伎を教えるために地域の大人が勉強をし、子ども達に関わり、伝える生涯学習の場面づくりとなっています。

また、小学3年生の「総合的な学習時間」で歌舞伎体験授業を通年で行い、三学期の授業参観日に保護者の前で「白浪五人男（しらなみごにんおとこ）」を上演しています。この体験を通じて歌舞伎に関心を持ち、「横仙こども歌舞伎」に参加する児童が多くあります。

昨年はコロナ禍の中、稽古日程など制限がある中、元NHKアナウンサー葛西聖司さんが横仙こども歌舞伎教室のために書き下ろしていただいた新作歌舞伎「菅原伝譚栄奈義　三部太郎物語（すがわらばなしなぎのいやさか　さんぶたろうものがたり）」に挑戦しました。

奈義町に伝わる大巨人伝説を脚色した創作歌舞伎で、恒例の秋の公演で披露する予定でしたが、無観客での公演を実施し、その様子はYOUTUBE「よこぜん歌舞伎チャンネル」で紹介しています。

源九郎狐と初音の鼓

【源九郎狐（げんくろうきつね）と初音（はつね）の鼓（つづみ）】

文楽や歌舞伎で繰り返し上演される「義経千本桜（よしつねせんぼんざくら）」を元に、横仙歌舞伎の中興の祖 高森源川連法眼館（かわつらほうげんやかた）を元に、横仙歌舞伎オリジナルの一幕です。一氏が手を加え書残した横仙歌舞伎オリジナルの一幕です。

源平合戦のヒーローである義経は、兄の頼朝の不信から、追手をかけられ、今は大和の吉野に潜伏している場面です。

そこへ、義経の恋人である静御前がやって来ます。対面を喜ぶ二人ですが、静御前は「鼓を打つと怪しい男女が必ず現れる」と訴えます。静御前が持っている「初音の鼓」は、義経が形見として与えたもので、雨乞いのために狩りだされた四百年生きたという妖狐の皮で張られています。

いぶかしさに義経が鼓を打たせると花売り・薪売りの男女が現れ、見事な踊りを披露します。関心した義経は褒美を出すのでした。しかし、褒美の申し出を断る二人は、「初音の鼓が欲しい」と訴え、とうとう狐の正体を現します。狐たちの、父母を思う健気な気持ちに心を打たれた義経は、二人（二匹）に鼓を与えるのでした。

喜んだ二人は義経への忠誠を誓い、その夜義経討伐のために変装し、単身忍び込んできた能登守教経（のとのかみのりつね）を妖術で追い返します。

横仙歌舞伎独特の配役の花売り、薪売りに化けた狐の兄弟、行者姿の能登守教経など他ではない演出にもご注目ください。

妖狐の花売り・薪売り

菅原伝授手習金監「車曳」梅王丸
こども歌舞伎教室

「義経千本桜」
早見藤太

「新の口村」
梅川と忠兵衛

横仙歌舞伎オリジナル
「泣笑孝行鑑」